

社会福祉法人さぽうと21

平成 25 年(2013 年)度 事業報告書

— 平成 26(2014)年 5 月 15 日 承認 —



《研究報告会「支援生とのつどい」にて・会場からの質問に笑顔で応える 中国帰国者三世》

社会福祉法人さぽうと21

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3 階

TEL : 03-5449-1331 / FAX : 03-5449-1332

E-mail : info@support21.or.jp / URL : <http://support21.or.jp/>

－ 目 次 －

平成 25 年度 事業報告	P. 1
生計困難者に対する生活援助事業	P. 2
1) 生活支援プログラム	
2) 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム	
3) 学習支援室	
生計困難者に対する相談事業	P. 11
その他	P. 12
1) 緊急経済支援	
2) 東日本大震災関連支援事業	
平成 25 年度 決算報告	P. 21
監査報告	P. 25



社会福祉法人さぼうとにじゅういち 平成 25 (2013) 年度 事業報告

日本がインドシナ難民の受け入れを開始してから 35 年の月日が経過しました。

その間、中国帰国者や日系定住者、条約難民と、様々な経緯で日本への定住を希望する方々が増える中で、当会の支援対象者も自ずと広がりを見せってきました。

団体設立時より活動にご賛同くださる会員や寄付者の方々、そして多くのボランティアのお力添えにより、高校や専門学校、大学で学び、社会人になった者の中には、日本生まれの子弟も増えてまいりました。変わらぬお力添えに、改めまして御礼申し上げます。

一方で、第一世代として日本に辿り着き、語学面等で苦勞をしながらも仕事に励み、出産、育児を終え、ここ日本で老後を迎える外国出身者も増えてきております。医療や介護の面など、今後日本人と同様の課題も浮き彫りになる可能性もあります。

難民をはじめとする外国出身者を取り巻く問題は、当事者や支援者だけで解決はできません。支援の輪をさらに広げていけるよう、努めてまいります。

以下に平成 25 年度に実施した事業の概要を記します。

生活援助事業では、本年度も「生活支援プログラム」及び「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」と「学習支援室」を運営いたしました。

「生活支援プログラム」では、生活支援金支給の他、自立支援の一環で、就職に生かせる資格試験の受験料を支援する、「キャリア支援制度」を導入しました。外資系企業や、旅行業界への就職を目指す学生が申請し、各々目標を達成いたしました。

平成 17 年に開始した「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」の受給者は、本年度で延べ 94 名に達しました。年末の研究報告会には、会員の方や外国人集住地域で活動する方、発表者の母校の先生、OB/OG などの関係者を含め 56 名の方にご参加いただき、交流を行いました。

「学習支援室」では、毎週土曜日の教室運営の他、昨年度に続き、文化庁の日本語教育委託事業を実施し、外部の日本語教室との連携も視野に入れた人材養成研修、初級者向けの日本語教室の開催、教材作成という三つの取り組みを行いました。

相談事業では、団体ホームページを再構築したことにより、「生活支援プログラム」の情報や、日本語教材を必要とする方などがアクセスしやすい環境を整えることができました。

また日本での在住歴が長くなる中で医療面に関する相談が増え、病院同行や医療通訳者の確保など、協力団体とも連携しつつ、相談者の対応にあたりました。

姉妹団体 AAR Japan [認定 NPO 法人 難民を助ける会] (以下 AAR) の協力のもと実施している「東日本大震災関連支援事業」では、本年度も企業・団体の皆さまより、継続して多大なるお力添えを賜りました。震災から 3 年を経て、復興の状況も抱える課題も、地域によって実に様々です。本年度は被災地の地域住民の安全に寄与するために防犯灯を設置するなど、新たな試みを行いました。当該事業に深いご理解とお力添えを賜りましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

以下に、各事業の活動内容を報告いたします。

I. 生計困難者に対する生活援助事業

(1) 生活支援プログラム

① 生活支援金の支給

高校や大学、専門学校に在籍するインドシナ難民や条約難民、中国帰国者及び日系定住者の子弟等で、経済的事情により就学が困難な者に対し、生活支援金を支給した。

支援金の支給は、2 か月に 1 度、銀行振込にて行った。

■ 2013 年度 生活支援生 総数：39 名

■ 支援金総額：5,580,000 円／年

■ 1 人あたり：5,000 円～30,000 円／月

(順不同)

国籍別 内 訳	ベトナム	19 名	高校：11 名／短大：1 名／専門：2 名／大学：5 名
	ミャンマー	3 名	高校：3 名
	中 国	3 名	高校：1 名／専門：1 名／大学：1 名
	ブラジル	1 名	大学：1 名
	ペルー	1 名	高校：1 名
	アルゼンチン	1 名	専門：1 名
	ナイジェリア	2 名	高校：1 名／大学：1 名
	朝鮮	2 名	高校：1 名／専門：1 名 ※うち 1 名は無国籍表記
	アメリカ	1 名	高校：1 名
	日 本 《ルーツのある国》 ベトナム、韓国、中国 ペルー、アフガニスタン	6 名	高校：1 名／大学：5 名

② 生活支援生への対応

i) 面談

夏期研修会では参加役員による個別面談の時間を設け、学業の様子や、進路についての考え、また家庭状況の変化について聞き取りを行った。その後事務局内でケースシェアを行い、対応が必要と思われる学生に対しては個別対応を行った。

ii) 支援金振込み確認葉書によるサポート

支援金振り込みの案内状と併せて、返信用に振込み確認葉書を送付した。前月の葉書にある支援生からの近況報告に対し、一言コメントを寄せるなどし、日々顔を合わせることの少ない支援生との関係づくりに努めた。

iii) エッセイの提出

支援生が自身の考えを整理して文章化するトレーニングの一つとして、また、支援生の関心や生活状況をよりよく理解することを目的として、エッセイの提出を義務付けた。優秀なエッセイを選定し、『Newsletter Vol. 53』に掲載した。

- テーマ：「今、一番関心を持って取り組んでいること」もしくは「日本に住む外国出身者として、感じていること」
- 字 数：800 字程度

iv) 就職支度金の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給。

- 支給者数：1 名（専門学校生）
- 支給総額：30,000 円

v) 入学支度金の支給

入学時の費用の負担が著しく困難な応募者に対して、4 月中に支給。

- 支給者数：5 名（高校生 2 名、専門学校生 3 名）
- 支給総額：150,000 円（1 人あたり 30,000 円）

vi) キャリア支援制度

英検・TOEIC・TOEFL の資格試験に挑戦した支援生に、受験料の実費を支給。

- 支給者数：1 名（高校生）
- 支給総額：3,900 円（英検 2 級）

(2) 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム（通称:坪井基金）

① 生活支援金の支給

大学 3 年生から大学院生までのインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者などの子弟を対象に、学業推進のための生活支援金を支給した。

支援金の支給は、毎月 1 回、銀行振込にて行った。

- 2013 年度坪井基金支援生 総数：10 名
- 支援金総額：6,360,000 円／年
- 1 人あたり：40,000 円 ～ 70,000 円／月

(順不同)

国籍別 内 訳	ベトナム	2 名	大学：2 名
	中 国	2 名	大学：1 名／大学院：1 名
	ペルー	1 名	大学：1 名

	日 本 《ルーツのある国》 ベトナム、中国、 カンボジア	5 名	大学：3 名／大学院：2 名
--	---------------------------------------	-----	----------------

② 坪井支援生への対応

i) グループ面談

夏期研修会にて参加役員によるグループ形式での面談を行った。各々の学業の様子や、進路について話し合った。

ii) 支援金振込み確認葉書によるサポート

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、手書きのメッセージのやり取りを行った。

iii) エッセイの提出

坪井支援生としての学業の成果を知ることと、(Ⅲ) その他 であげる「支援生とのつどい」での研究内容に関する発表者を選定するため、エッセイの提出を義務付けた。提出されたエッセイは各人の研究報告として、支援生報告会のプログラムに掲載した。

- テーマ：「今研究していることを、将来どのように社会に還元できるか」
- 字 数：1500 ～ 2000 字程度

iv) 就職支度金の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給。

- 支給者数：4 名（大学 2 名、大学院 2 名）
- 支給総額：120,000 円（1 人あたり 30,000 円）

v) キャリア支援制度

英検・TOEIC・TOEFL の資格試験に挑戦した支援生に、受験料の実費を支給。

- 支給者数：2 名（大学院生）
- 支給総額：11,130 円（TOEIC 2 名）

(3) 夏期研修会の実施

親が外国出身者であることや、経済的に困難な状況にある中で、就学・就労の選択肢が限定されがちな支援生の自立を後押しする目的で開催している。来日経緯、年齢、学年、出身地域の異なる参加者が、外国出身者として日頃感じている悩みなどを、同年代の仲間と共有できる機会となっている。

本年度は進学や就職活動を控えている学生も多いことから、進路選択に焦点を当てて行った。講師には長年、青少年の自立支援活動に携わっている石井 正宏 氏を迎え、架空の学生の相談事例をもとに、自分だったらどういう助言をするか、「自分事を他人事」として捉えるためのワークショップを行った。

また研修会中は、支援生の学業の様子や生活環境の変化を把握するため、役員による個人面接を実施し、個別にアドバイスをを行った。

- 実施期間：2013 年 8 月 17 日（土）－ 19 日（月） 2 泊 3 日
- 会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木）
- 参 加 者：72 名



1 日目	開会・自己紹介レクリエーション
	映画上映：『Roots of many colors』 ＊支援生 OG 監督の作品
	自由参加講座 「話し方」（久保田 真樹子 氏／日本語教師・元アナウンサー） 「社会に出ても活かせる好印象なメイク」（尾崎 憲子 氏／メイクセラピスト） 個人面談
2 日目	ワークショップ：「ワールドカフェ みんなで友だちの悩みを解決しよう！」 講師：石井 正宏 氏（株式会社シェアするココロ 代表）
	NHK スタジオパーク見学
	グループトーク ＊坪井支援生と支援生 OB/OG による意見交換会
3 日目	研修会まとめ・閉会

支援生 感想	・日本に住んでいる外国人は、在日歴の長さに関係なく、似たような悩みをもっていると感じました。一人ではないことにちょっと安心しました。 (韓国・専門学校1年生)  ・みんなそれぞれちがう経験があり、とっても勉強になりました。 自分は外国人だと自信をもって言えるようになりたい。 (ブラジル・大学2年生)
-------------------	---

(4) 学習支援室

① 日本語教室、パソコン教室、学校教科補習教室

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語力を習得すること」だけを目指す支援ではなく、その自立を後押しし、社会参加の道を拓いていくことを目的として教室を運営した。

- 開催日：毎週土曜日 10 時 ～ 18 時
(必要性があると判断された場合は平日にも授業を実施した)
- 開催場所：さぽうと 21 事務所会議スペース並びに難民を助ける会事務所
- 受益者数：2,341 名 (のべ)
- 稼働ボランティア数：2,182 名 (のべ)
- 登録受講者数：約 80 名 (うち今年度新規登録者 24 名) 8 歳 ～ 74 歳
ミャンマー以外は各 1、2 名 (カンボジア、ベトナム、スーダン、元中国、朝鮮、無国籍)
- 登録ボランティア講師数：約 85 名 (うち今年度新規登録者 30 名)
* 聖心女子大学 SHRET のメンバーがボランティアとして参加。

【 受講者動向 】

- 進学
大学 2 名 (ミャンマー 2 名・共に「難民高等教育プログラム」合格)
専門学校 1 名 (ミャンマー 1 名)
都立高校 3 名 (ミャンマー 3 名)・都立定時制高校 1 名 (ミャンマー 1 名)
私立高校 1 名 (ミャンマー 1 名)
- 就職
1 名 (ミャンマー 1 名・職業訓練校を経て)
- 日本語能力試験
N1 合格 4 名・N2 合格 1 名 (満点)・N3 合格 3 名 (1 名は満点)・N4N5 受験者なし

- その他：（公財）日本ネイリスト検定試験センター主催ネイル試験
2 級合格 1 名・3 級合格 3 名

② 受講者、ボランティア講師向け行事等の実施

受講者の学習意欲向上、日本語力の向上、ボランティアの指導力強化、参加者相互の交流、情報交換等を目的として、下記の通行事等を実施した。

4 月	6 日【ミャンマーを知るための勉強会（1）】 講 師：田辺 寿夫 氏
5 月	18 日【ミャンマーを知るための勉強会（2）】 講 師：AAR 山本 祐一郎 氏、JICA 府川 賢祐 氏
6 月	1 日【ミャンマーを知るための勉強会（3）】 講 師：田辺 寿夫 氏 15 日【ミャンマーを知るための勉強会（4）】 29 日 ～ 7 月 13 日【七夕短冊 作成】
7 月	13 日・20 日【住基カードについてのビルマ語通訳付き説明】 20 日【ボランティア・ワンコイン交流会】（参加者：44 名） 27 日【「Roots of many colors」上映＋語り合いの会】（参加者：58 名）
8 月	—
9 月	28 日【ワークショップ】「エンジニアって何？」（参加者：22 名） 企画実施者：IBM 所属ボランティア
10 月	5 日・6 日（日）【グローバルフェスタ AAR ブース協力参加】 5 日【親の会・その 1】 内容：高校受験制度の復習、私立高校進学の場合の経済的な補助等 19 日【ワークショップ】「接客マナー講座（1）」 企画実施者：カフェプロジェクトチーム
11 月	16 日【ワークショップ】「接客マナー講座（2）」 企画実施者：カフェプロジェクトチーム 23 日【日帰りバス旅行】（参加者：63 名） 訪問先：アクアライン・勝浦朝市・海中公園・誕生寺・鯛の浦・ 小湊（バイキング）・四季の蔵・海ほたる等
12 月	21 日【親の会・その 2】 【クリスマスを食べよう会】 企画実施者：カフェプロジェクトチーム
1 月	18 日【ボランティア講師顔合わせ会】（参加者：55 名） 【書き初め】＊さぽうと 21 事務所にて展示
2 月	1 日【お相撲を見に行こう】（参加者：27 名）＊希望者のみ 15 日【お餅を食べよう会】
3 月	15 日【学習発表会】 29 日【卒業・進学・就職を祝う会】＊新高校生面談・受験経験の振り返り



③ 委託事業、助成金受託事業等の実施

i) 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

- 事業名：「外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業」
- 実施期間：2013年8月9日－2014年3月20日
- 目的：日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教室を展開していくこと。
また、国の施策の一環として文化庁が主体となって進めている「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」につき、現場での実践に基づいた発信をしていくこと。
- 運営委員会：高橋 敬子（委員長）、奥原 淳子、長崎 清美、中村 陽子、平村 和美、藤原 理恵、松野 志歩、矢崎 理恵
- 事業決算額：1,978,433 円
- 事業内容：以下の3つの取り組みを企画、実行した。

●取組1-1：日本語教室（「難民のための参加型初級日本語講座」）の設置運営

期 間：2013年10月5日－2014年3月15日（1回2時間半×21回＝52.5時間）

＊ヒアリング1日を含む

場 所：レンタルスペースゴブリン

受講者の総数：12名（国籍は全てミャンマー）

講 師：ディラン恵子 氏／ 講義補助者：羽毛田 恵美氏

特 徴：「標準的なカリキュラム案」をベースに、対話・相互理解に重きをおいた日本語教室を設置運営した。日本語学習を受ける機会が少ない難民等を対象として、視聴覚教材を活用した授業を実施した。

●取組1-2：「難民のための健康ワークショップ」の設置運営

期 間：2014年2月8日－2014年3月15日（1回1時間半～2時間×4回）

場 所：さぼうと21学習支援室内

受講者数：10名～15名

（＊学習支援室ボランティア含むことから、国籍はミャンマー、スーダン、ベトナム、日本）

各回テーマ：「食育」「歯育」「健康に過ごそう 1」「健康に過ごそう 2」

講師：田辺 恵美子 氏（学習支援室ボランティア・栄養士）

植木 千津 氏（学習支援室ボランティア・フードコーディネーター）

大金 伸子 氏・原 智子 氏（東京都歯科衛生士会）

本山 佳代 氏（看護師・保健師） 等

特徴：「健康に過ごそう」をテーマに、一部専門家を招き、「調理」「歯磨き」「血圧チェック」等を行いながら、健康に対する意識を高めることを試みた。

●取組 2：日本語教育を行う人材の養成・研修

「日本語教室ボランティア 振り返り&学び合い講座」の実施

【スキルアップ編】

期 間：2013 年 11 月 2 日－2014 年 3 月 8 日（1 回 2 時間×10 回＝20 時間）

場 所：さぽうと 21 事務所会議スペース

受講者の総数：24 名

講師：山形 美保子 氏

特徴：日本語指導のための基礎的な知識や技能を習得し、「標準的なカリキュラム案」のみならず、生活者のための日本語教育のあり方を広く学ぶこと。

【理解を深める講座編】

日時：2013 年 1 月 26 日・3 月 1 日 11 時～17 時

場所：さぽうと 21 事務所会議スペース

受講者の総数：46 名

講師：嶋田 和子 氏・安場 淳 氏・高柳 なな枝 氏・林 光洋 氏／

田村太郎氏・佐々木春海氏・ブパール・マン・シュレスタ 氏・

ゲンティホンハウ氏



特徴：

「生活者としての外国人」について、そのおかれた環境などについての理解を深めるため、様々な現場に直接かかわる方々、当事者の方々のお話をうかがい、参加者各人の振り返り、今後の活動のあり方を再考することを目標として行った。

●取組 3：日本語学習導入期用「生活場面切り取り動画」および付属教材の作成

期 間：2013 年 9 月－2013 年 3 月

作成動画：全 10 タイトル

作成付属教材：全 18 作品

主な作成者：平村和美・中村陽子・藤原理恵・羽毛田恵美・松野志歩・片山杏子

特 徴：「標準的なカリキュラム案」活用に有効と思われる生活場面切り取りの動画教材を作成した。また、動画利用の助けとなるよう「付属紙教材」を作成した。

④ その他

i) 品川区等他機関との連携強化

■ 東京日本語ボランティア・ネットワーク「総会」出席 (矢崎)

日時：2013 年 4 月 14 日 (日) / 場所：東京ボランティア・市民活動センター

■ 聖心女子大学 SHRET 祭 出席

■ 品川区主催「地域国際交流懇談会」出席 (矢崎)

日時：2013 年 9 月 11 日 (土) / 場所：品川区

内容：外国人と関わりのある区内の大学、NPO などが集い、意見交換を行った

■ キンザニア東京視察

日時：12 月 11 日 (水) (中谷・矢崎)

＊ キンザニア東京関口陽介氏 (営業本部広報・マーケティング部長) の仲介で施設訪問 ⇒ 数名レベルから試験的に無料体験実施 (日時未定)

■ 品川区の節分イベント参加 (矢崎)

日時：2 月 3 日 (月)

■ 難民事業本部 RHQ 第三国定住難民・条約難民日本語教室見学

日時：2 月 21 日 (金) (参加者 4 名：奥原、中村、中谷、矢崎)

■ 見学受け入れ

日時：2 月 22 日 (土) (訪問者 6 名：嶋田和子先生他 清泉女子大学関係者)

ii) 外部での報告等

■ 荏原消防署主催「外国人による防火防災意見発表会」に協力

日時：2013 年 11 月 15 日 (金) / 場所：荏原文化センター

発表者：ノウトゥエポさん (ミャンマー) ウェンティさん (ミャンマー)

■ 文化庁日本語教育大会にて委託事業 報告

＊主に動画教材作成について報告

日時：8 月 30 日 (金) 31 日 (土) / 場所：昭和女子大学 / 報告者：矢崎

■ 東京都国際化市民フォーラム第 4 分科会にてパネリスト参加・委託事業 報告

＊主に動画教材作成について報告

日時：2014 年 3 月 22 日 (土) / 場所：JICA 地球ひろば / 報告者：矢崎

- iii) **大正大学教育実習生の受け入れ**（大正大学からの依頼を受け、2012 年度より実施）
- 期 間：春学期 4 月－7 月・秋学期 10 月－1 月（1 人 90 時間 1 学期）
 - 実習生：大正大学人間学部人間環境学科のびのびこどもプロダクトコース
2 年生、3 年生 春学期 4 名、秋学期 1 名
 - 実習内容：学習支援室を中心に、日本語支援、学習支援のアシスタント、教務・事務作業等を行う。
- iv) **ボランティア・受講者による勉強会やクラブ活動への対応**
- ボランティアや学習者が主体的に行うイベントやクラブ活動に関する相談を受け、必要に応じて場所の手配等。現在「ギタークラブ」「にほんご・ビルマ語クラブ」「わくわく英会話」「わくわく新聞」「さぽうとカフェ」の 5 グループが活動中。

II. 生計困窮者に対する相談事業

(1) 相談事業の実施

■ 相談件数：104 件

原則として、日曜祝日を除く 10 時～18 時、電話、面談、Eメールで、相談を受け付けた。

具体例	・ 当会で作成した多言語の日本語教材の配布
	・ 医療機関への同行や、行政が行う医療費補助の申請手続きの案内
	・ 居住地に近い日本語教室の紹介
	・ 奨学金や、行政による就学資金の貸付情報の提供 など

(2) 職員研修の実施

i) 広報勉強会への参加

日本 NPO センター(NPO 広報研究会)主催の広報に関する勉強会に出席し、広報物を作成する際の要点について学んだ。

ii) 在住外国人支援のための東京都合同連絡会議への出席

都内の外国出身者を支援する団体・学校との合同会議(東京都主催)に出席した。本年度は、災害発生等に備え、外国人により分かりやすく、的確に情報を伝達することを目的に、「やさしい日本語」の使い方についての講習を受けた。

iii) 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が行う調査への参加

難民の実態調査として UNHCR が行っている AGDM(参加型合同調査)に参加した。

Ⅲ. その他

(1) 緊急経済支援

難民および庇護希望者支援団体の連合体である「なんみんフォーラム(FRJ)」の加盟団体と連絡調整を行い、庇護希望者が必要な支援を受けられるよう協力した。

緊急支援金の給付・貸付共に、本年度は該当者なし。

(2) 東日本大震災関連支援事業

東日本大震災発生から3年目となった2013年度も、さまざまな企業・個人の方々のご支援により、AARと協力しながら、岩手県・宮城県・福島県の被災地への支援活動を行った。

① 物品寄贈

i) 津波被害に遭った高校への楽器寄贈（追加支援）

2011年度に行った被災地の学校への吹奏楽器寄贈の一環として、津波被害の大きかった宮城県石巻好文館高等学校に、地元楽器店から購入したクラリネット3台を追加寄贈し、クラブ活動の充実を図った。

ii) 幼稚園への冷蔵庫・洗濯機等寄贈（青年会のお祭り運営支援による）

宮城県石巻市渡波地区にある井内東部青年会 依田 清胤 会長 が主催した「さくらまつり」の運営に協力し、チャリティグッズ等の純益をもとに、渡波地区の幼稚園2校への備品寄贈を支援した。

iii) 福祉施設、仮設住宅等への書籍・雑誌寄贈 【図書寄贈プロジェクト2013】

被災地の仮設住宅や福祉施設で、入居者や利用者向けの本が不足していることを受け、2012年度に全国から寄せられた小説、児童書、絵本、実用書等の蔵書、約3000冊を宮城県内の仮設住宅や福祉施設、手芸グループなど（主に6ヵ所）に寄贈した。



その他の施設等で書籍が不足しているとの声があり、2013年度も宮城県各地においてAARと協同で図書寄贈プロジェクトを継続した。AARが障がい者支援等を行っている施設や仮設住宅（11ヵ所）に、新刊本約350冊と年間購読雑誌23種類を寄贈した。

iv) 罹災した幼稚園への避難訓練用リヤカー寄贈



津波で被害を受けた石巻市渡波地区の市立住吉幼稚園のご依頼により、園児の避難訓練や物品運搬に必要なリヤカー2台を寄贈した。

v) 障がい者福祉団体への指導用囲碁盤の寄贈 《AAR への委託事業》

岩手県大船渡市赤崎町で、障がい者の就労移行・就労継続支援事業を行うさんりく・こすもすが開設した「囲碁サロン」に、教授用の囲碁盤一式を購入した。

vi) 高齢者福祉施設への電子レンジ台の寄贈 《AAR への委託事業》

震災による津波で可住地域の6割が浸水した山元町の高齢者福祉施設ささえ愛山元に、傷んだままだった調理場のレンジ台を新たに購入しました。

② イベント開催

i) 被災者の同窓会と鼓体験ワークショップ



宮城県大崎市の鳴子温泉地域にて、罹災後離れて暮らす宮城県石巻市北上町十三浜字吉浜の住民25名の再会の場「同窓会」を設けた。

また同時に、能楽囃子大倉流大鼓奏者の大倉 正之助 氏（重要無形文化財総合認定保持者）や鳴子国際交流協会のご協力を得て、AARと共同で鼓体験ワークショップを開催した。

ii) 陸前高田若興人祭への協力

大津波で破壊的な被害を受けた岩手県陸前高田市の再生を願って、同市や近隣の市町村出身の若者たちの手により2012年に行われた「若興人祭」が本年度も開催され、当会が運営費用の一部を支援した。

iii) 石巻市渡波地区の秋祭りへの協力

2013年4月27日に行われた石巻市渡波地区の井内東部町内会さくらまつりに引き続き、10月に開催された秋祭りの運営費用を支援した。

iv) 釜石市の中学校における鼓ワークショップの開催 <AAR への委託事業>



岩手県釜石市立大平^{おおだいら}中学校と甲子^{かつし}中学校にて、囃子大倉流大鼓方能楽師で重要無形文化財総合認定保持者の大倉正之助 氏と弟子の方々3 名を再び招聘し、鼓の講習会を実施した。

v) 天満敦子ヴァイオリン・リサイタル「明日に繋ぐ祈り 2014」の共催



バイオリニストの天満敦子さんとピアニストの吉武雅子さんによる、震災復興支援のチャリティコンサート（主催：AAR）を、2013 年 3 月の東北巡演・東京公演に引き続き、今年度も共催した。

東北公演は、2014 年 3 月 17 日から 21 日にかけて、福島県の 3 会場と岩手県で入場無料コンサートを行い、約 2600 名の方々にお越しいただいた。

東北巡演後の東京公演（3 月 25 日、紀尾井ホール）には、約 600 名の方々にご来場いただいた。

③ 防犯灯設置プロジェクト <AAR への委託事業>

東日本大震災により大きな被害を受けた地域の住民の方々が安全に生活できるよう、今年度新たに防犯灯設置プロジェクトを実施した。

i) 津波被害に遭った大船渡市での LED 防犯灯設置（1）

岩手県大船渡市盛町字みどり町に、LED 防犯灯 20 台を設置した。

同町では、津波により住宅の大部分が流失または浸水した。現在は壊れた住宅の復旧や新築が進む一方で、行政的措置が間に合わず、子どもたちの親などから、道路が暗く、事故や治安の悪化を心配する声が寄せられていた。

設置場所は、地域担当の公民館役員等の巡回調査により必要性が高いと認められた 20 ヶ所（住宅周辺、職業訓練校、公園、診療所の付近など）の電柱。

被災した地元の電気工務店を通じて 2013 年 6 月に開始した工事は、1 ヶ月余りで完了。7 月 19 日に市内のカメリアホールにて、戸田 公明大船渡市長もご出席下さり、点灯式が行われた。

ii) 津波被害に遭った石巻市での LED 防犯灯設置

宮城県石巻市北上町十三浜吉浜に LED 防犯灯 15 台を設置した。

災害危険区域に指定された吉浜では新築・増改築が制限されており、残った住民の多くは被災した住居を修繕して生活している。

世帯数が減るにつれ住宅の明りが少なくなっていることと、地域一体の地盤が沈下しており、降水時には一部の道路が冠水して歩行や運転時に危険なため、防犯灯設置の要望があがっていた。



iii) 津波被害に遭った大船渡市での LED 防犯灯設置 (2)

最初に 20 台を設置した岩手県大船渡市では、他地区でも防犯灯追加のニーズが高く、各地域をとりまとめている公民館の担当者とともに調査を続けた結果、市内 4 地区（越喜来・猪川・赤崎・盛）にて合計 42 台を設置し、今後 2 年間の電気代も支援することになった。

④ その他（雇用支援、商品開発支援）

i) 被災生活を送る障がい者の送迎ドライバー雇用支援 《AAR への委託事業》

福島県郡山市の交流サロンしんせい（運営：JDF 被災地障がい者支援センター ふくしま）は、震災と原発事故の影響で双葉郡から避難している障がい者が集う場所である。企業や福祉施設等での就労に向けた準備を行う場として「ふたば製作所」を設け、使用済み封筒を利用したペーパーバッグの制作と販売を行っている。増え続ける利用者をスタッフが送迎するのは限界があり、専属ドライバーの人件費を当会が支援することにした。

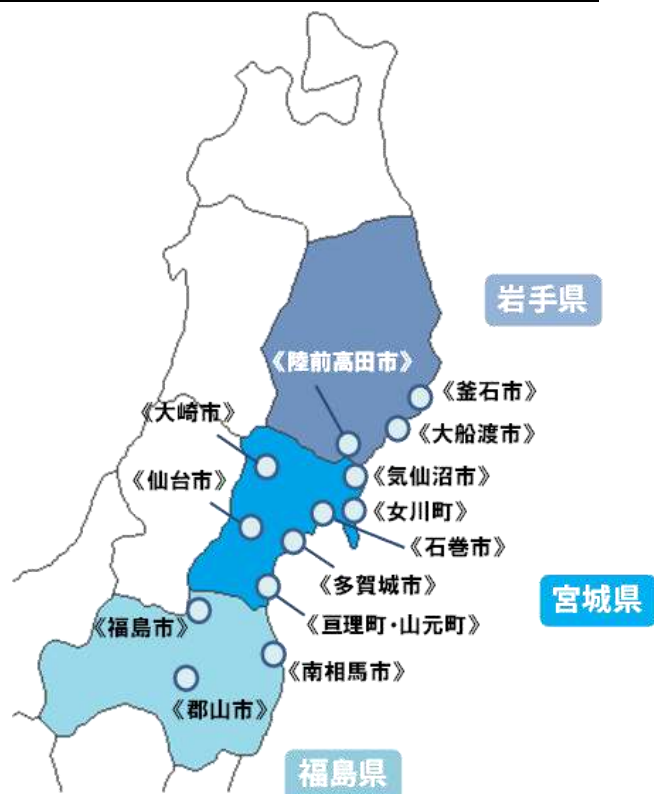
ii) 精神障がい者通所授産施設の商品開発支援 《AAR への委託事業》



岩手県大船渡市立根町にある星雲工房は、社会福祉法人大洋会が運営する精神障がい者通所授産施設（就労継続支援事業所）で、KIHACHI を創立した料理家、熊谷喜八氏とご子息の熊谷隆之 氏のご協力を頂き、星雲工房が運営する喫茶「夢茶房」の新製品開発を支援した。

個人情報に配慮し、2013 年度にご協力くださった主な団体・企業を下記に紹介させていただきます。
(五十音順、敬称略)

企 業 ／ 財 団	株式会社ミリオンインターナショナル
	株式会社玉屋
	株式会社ボネール
	公益財団法人野村生涯教育センター
	サルコヤ（株式会社福助屋商店）
	サンキョー株式会社
	高野興業株式会社
	鳴子ホテル
	日本ロレックス株式会社
	ピーアークホールディングス株式会社
	フシミコーポレーション株式会社
	宮脇書店 鹿島台店（有限会社テルイ）
	山ふところの宿みやま
	有限会社タニパテントシステムズ
行政 ／ 団体	稲井オヤジの会
	大倉正之助事務所
	八咫鳥鼓動隊
	鳴子国際交流協会



(3) 広報活動

① ニュースレターの発行

広報誌『Support21 Newsletter』を年 3 回発行した。本年度支援生の紹介、夏期研修会や学習発表会の報告、支援生によるエッセイなどを掲載し、各号、会員・寄付者、社内で CSR 活動に取り組んでいる企業宛に約 700 部を送付した。

■ 発行月：Vol. 51／2013 年 7 月、Vol. 52／12 月、Vol. 53／2014 年 3 月

② ホームページの再構築・更新作業

難民等の定住外国出身者の状況に対する社会的理解を深め、支援者の拡充を図ること、及び、定住外国出身者によりよい情報提供を行うことを目的に、ホームページの再構築を行った。

新ホームページは 8 月 8 日付で公開され、日本語の学習教材(紙教材・動画教材)や、支援生 OB/OG、ボランティア紹介ページなども新たに設けた。

当会主催・共催の行事や支援生の募集、各種情報提供など、随時更新を行った。

③ コンサートの開催

AAR との共催で、下記の通りチャリティコンサートを開催。

- i) 2013 年 10 月 8 日(火)：第 7 回『加藤タキ・チャリティサロンコンサート』
- ii) 2014 年 2 月 17 日(月)：中村紘子×山田和樹 初共演によるチャリティコンサート
- iii) 2014 年 3 月：天満敦子ヴァイオリン・リサイタル『明日に繋ぐ祈り 2014』(被災地支援)

■ 東北公演

福島県：南相馬市 3 月 17 日、福島市 3 月 18 日、郡山市 3 月 21 日

岩手県：大船渡市 3 月 20 日

■ 東京公演：3 月 25 日(火) [紀尾井ホール(東京都千代田区)]

④ 支援生による研究報告会「支援生とのつどい」の実施

支援者への報告及び新たな支援者を募る一環として、支援生が専攻分野について発表し、日本や出身国への思いなどを、来場者の方々との交流の中でともに考える場として開催している。

本年度は「私たちの研究を将来どのように社会に還元できるか」というテーマのもと、「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」の受給者 10 名が発表を行った。

当日は社会人 1 年目や 3 年目に入った OB/OG の参加もあった。入社した企業の新商品を嬉しそうに紹介する OG や、数年前、同じように研究発表を行った自分の姿を思い浮かべ、後輩に励ましの言葉をかける OB など、当会の活動を支援してくださっている方への貴重な報告の機会となった。

- 実施日時：2014 年 12 月 21 日（土） 13 時半～17 時（17 時～ 懇親会）
- 会 場：JICA 地球ひろば（東京都新宿区市谷本村町）
- 参 加 者：56 名



第 1 部 大学生	1. 私が学んできたことと今後の活用 (カンボジア／横浜市立大学)
	2. 不完全情報ゲーム AI が社会に与える影響 (ベトナム／慶応義塾大学)
	3. 紛争史の可能性から見る歴史学の可能性 (ベトナム／立教大学)
	4. 自信を持って楽しい学校生活を送るための母語教育 (中国／首都大学東京)
	5. 在日ベトナム人とベトナム人留学生の就職意識調査 ー 日越の架け橋の存在とベトナム社会の課題ー (ベトナム／横浜市立大学)
	6. 生殖細胞が社会に与えられる影響の可能性を信じて (ペルー／横浜市立大学)
	7. 国際法の発展と未来 (中国／大阪大学)
第 2 部 大学院生	8. 化学センサによる吸収器官細胞層のバリア機能評価 (中国／東北大学 大学院)
	9. 特許情報を用いた家庭用エアコンにおけるダイキン工業とパナソニック の技術動向比較 (ベトナム／東京工業大学 大学院)
	10. 機械などの信頼性に関する研究 (中国／名古屋工業大学 大学院)

参加者 感想	・自分の研究が、社会人としての知識や生活に直接結びつくわけではないが、ここで身につけた『考えるための力』を大切にしていきたい。 ・皆さん優秀でびっくりしました。 ・自分の学生時代を思い出すと、皆さんとてもシッカリしていて、爽やかでまぶしかったです。 ・研究テーマの根底に for others for peace が感じられ、頼もしく思いました。 ・理系、文系を問わず、幅広くお話を聞けたので、とても興味深かったです。 ・インドシナ難民 2 世の方々とお話させていただきました。
-----------	---

(4) パートナースhip

なんみんフォーラム (FRJ) への参加を通して、支援を必要とする方に関する情報の共有や各団体との連携を行った。

(5) 企業のご協力による団体活動の充実

当会の学習支援室でボランティア講師として活動して下さっている社員の方が推薦人となり、団体の活動を充実するための物品購入等のための資金援助を受けた。

① 日本アイ・ビー・エム株式会社 コミュニティー・グランツ・プログラム

■ 助成金額：315,000 円

■ 使 途：大型 TV・タブレット他付属品の購入。学習支援室において大人数で動画を利用した授業を実施したり、小規模研修会の際にモニターとして利用したりする。

② リコー社会貢献クラブ・FreeWill

■ 助成金額：300,000 円

■ 使 途：学習支援室授業用ホワイトボード 1 台とバスハイク入園料。
残金 175,038 円は 2014 年度利用の予定。

(6) 助成金事業

平成 25 年度 文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

事業名：「外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業

～「健康に過ごそう！」を合言葉に～」

実施期間：2013 年 8 月 9 日 － 2014 年 3 月末（*P.8～9 を参照のこと）

委託事業費：1,978,433 円

(7) 理事会・評議員会

平成 25 年度は定例理事会・評議員会に加え、臨時の理事会・評議員会を下記の通り開催した。

■ 定例 開催

《第 1 回》

評議員会：5 月 28 日（火） 10 時 ～ 11 時

理 事 会：5 月 28 日（火） 11 時 ～ 12 時

《第 2 回》

評議員会：3 月 13 日（木） 10 時 ～ 11 時

理 事 会：3 月 13 日（木） 11 時 ～ 12 時

■ 臨時 開催

《第 1 回：理事長選出》

理 事 会：6 月 1 日（土） 16 時半 ～ 17 時半

《第 2 回：補正予算》

評議員会：11 月 12 日（火） 10 時 ～ 11 時

理 事 会：11 月 12 日（火） 11 時 ～ 12 時

平成 25 年度 決算報告

貸 借 対 照 表				
平成26年(2014年)3月31日現在				
(単位:円)				
科 目		金 額		
【資産の部】				
流	動 資 産			
	現 金 預 金	46,289,620		
	前 払 金	0		
	立 替 金	0		
	流動資産合計		46,289,620	
固	定 資 産			
	基 本 財 産			
	そ の 他 基 本 財 産	100,000,000		
	基 本 財 産 合 計	100,000,000		
	そ の 他 の 固 定 資 産			
	什 器 備 品	47,250		
	土 地	17,600		
	長期保有目的有価証券	100,000,000		
	そ の 他 の 固 定 資 産 合 計	100,064,850		
	固定資産合計		200,064,850	
	資産合計			246,354,470
【負債の部】				
	未 払 金	100,000		
	預 り 金	171,545		
	流動負債合計		271,545	
	負債合計			271,545
【正味財産の部】				
	正 味 財 産			246,082,925
	(う ち 基 本 金)			(100,000,000)
	(うち当期正味財産増加額)			2,482,270
	負債及び正味財産合計			246,354,470

事業活動計算書									
平成25年(2013年)4月1日から平成26年(2014年)3月31日									
									(単位:円)
科 目					金 額				
I 経 常 増 減 の 部									
① 経 常 収 益									
会	費	収	入						
正	会 員 会 費	収 入							1,635,000
補	助 金 等	収 入							
	民 間 助 成 金	収 入							315,000
公	的 助 成 金	収 入							1,554,960
寄	付 金	収 入							
	寄 付 金	収 入							35,962,908
資	産 受 贈	益							0
受	取 配 当	金							
	受 取 配 当	金							10,000,000
雑	収 入								
	受 取 利	息				1,206,804			
雑	収 入					89,800			1,296,604
合 計									50,764,472
② 経 常 費 用									
事	業	費							
	給 料 手 当					9,301,427			
	生 活 相 談 費					1,711,776			
	生 活 支 援 金								
	生 活 支 援				5,667,890				
	生 活 支 援 坪 井 プログラム				6,763,230	12,431,120			
	生 活 支 援 助 費					1,417,723			
	助 成 金 事 業 費					2,386,628			
	震 災 事 業 費					14,146,974			
	会 議 費					10,858			
	会 費					10,000			
	旅 費 交 通 費					312,670			
	福 利 交 厚 生 費								
	通 信 運 搬 費					233,800			
	書 籍 償 却 費								
	減 価 償 却 費					70,875			
	消 耗 品 費					13,891			
	印 刷 製 本 費					264,131			
	諸 謝 金								
	保 険 料								
	支 払 手 数 料					52,260			
	雑 費					19,755			42,383,888
管	理	費							
	給 料 手 当					1,989,415			
	法 定 福 利 費					1,288,232			
	旅 費 交 通 費					56,950			
	福 利 交 厚 生 費					13,961			
	諸 謝 金					111,111			
	通 信 運 搬 費					477,811			
	会 議 費					52,602			
	消 耗 什 器 備 品 費					131,599			
	事 務 所 賃 借 料					720,000			
	外 部 監 査 費					100,000			
	支 払 手 数 料					85,692			
	印 刷 機 費					418,909			
	租 税 公 課								
	雑 費					1,312			5,447,594
予	備	費							450,720
合 計									48,282,202
当 期 経 常 増 減 額									2,482,270
当 期 正 味 財 産 増 減 額									2,482,269
前 期 繰 越 正 味 財 産 額									243,600,655
前 期 末 正 味 財 産 合 計 額									246,082,925

資 金 収 支 計 算 書

平成25年(2013年)4月1日から平成26年(2014年)3月31日

				(単位:円)
科 目		予 算 額	決 算 額	差異(予算-決算)
【事業活動収支の部】				
1. 事業活動収入				
会費収入		1,500,000	1,635,000	-135,000
正会員会費収入		1,500,000	1,635,000	-135,000
補助金等収入		1,600,000	1,869,960	-269,960
民間助成金収入		50,000	315,000	-265,000
公的助成金収入		1,550,000	1,554,960	-4,960
寄附金収入		32,000,000	35,962,908	-3,962,908
寄附金収入		32,000,000	35,962,908	-3,962,908
受取配当金		10,000,000	10,000,000	0
受取配当金		10,000,000	10,000,000	0
雑収入		1,200,000	1,296,604	-96,604
受取利息		1,200,000	1,206,804	-6,804
雑収入			89,800	-89,800
事業活動収入合計(A)		46,300,000	50,764,472	-4,464,472
前期繰越収支差額		43,464,930	43,464,930	0
収入合計(B)		89,764,930	94,229,402	-4,464,472
2. 事業活動支出				
事業費		49,920,000	42,313,013	7,606,987
給料手当		10,330,000	9,301,427	1,028,573
生活支援金		13,500,000	12,431,120	1,068,880
生活相談費		2,600,000	1,711,776	888,224
生活援助事業費		780,000	1,417,723	-637,723
助成金事業費		6,300,000	2,386,628	3,913,372
震災事業費		14,550,000	14,146,974	403,026
福利厚生費		10,000		10,000
旅費交通費		450,000	312,670	137,330
通信運搬費		550,000	233,800	316,200
会議費		10,000	10,858	-858
消耗品費		100,000	13,891	86,109
印刷製本費		500,000	264,131	235,869
ソフトウェア購入費		50,000		50,000
書籍費				0
諸謝金				0
保険料		30,000		30,000
会費		30,000	10,000	20,000
支払手数料		100,000	52,260	47,740
雑費		30,000	19,755	10,245
管理費		5,271,370	5,447,594	-176,224
給料手当		2,070,000	1,989,415	80,585
法定福利費		1,030,000	1,288,232	-258,232
通信運搬費		300,000	477,811	-177,811
旅費交通費		3,000	56,950	-53,950
消耗品費		300,000	131,599	168,401
事務所賃借料		600,000	720,000	-120,000
外部監査費		105,000	100,000	5,000
諸謝金		113,370	111,111	2,259
福利厚生費		30,000	13,961	16,039
会議費		10,000	52,602	-42,602
印刷機費		600,000	418,909	181,091
租税公課				0
支払手数料		100,000	85,692	14,308
雑費		10,000	1,312	8,688
予備費		2,500,000	450,720	2,049,280
事業活動支出合計(C)		57,691,370	48,211,327	9,480,043
固定資産取得支出		0		0
什器備品購入				0
当期支出合計(D)		57,691,370	48,211,327	9,480,043
当期収支差額(A-D)		-11,391,370	2,553,145	-13,944,515
次期繰越収支差額(B-C)		32,073,560	46,018,075	-13,944,515

財 産 目 録			
平成26年(2014年)3月31日 現在			
(単位:円)			
科 目	金 額		
【資産の部】			
流 動 資 産			
現 金 手 許 有 高		102,645	
普 通 預 金			
三井住友銀行目黒支店(4口座)	22,585,445		
三菱東京UFJ銀行目黒支店	4,487,615		
みずほ銀行目黒支店	1,489,144		
普通預金合計		28,562,204	
郵便振替口座		17,624,771	
現金預金計		46,289,620	
流動資産合計			46,289,620
固 定 資 産			
基 本 財 産			
その他の基本財産(国債)		100,000,000	
その他の固定資産			
長期保有目的有価証券(株券)	100,000,000		
印刷機	47,250		
土地	17,600		
その他の固定資産合計		100,064,850	
固定資産合計			200,064,850
資産合計			246,354,470
【負債の部】			
預 り 金			
源泉所得税		171,545	
未 払 金			
東日本震災事業費3月分		100,000	
流動負債合計			271,545
負債合計			271,545
【正味財産の部】			
正 味 財 産			246,082,925
(うち基本金)			100,000,000
(うち当期正味財産増加額)			2,482,270
負債及び正味財産合計			246,354,470

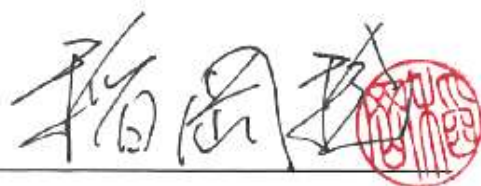
監 査 報 告 書

社会福祉法人さぼうとにじゅういち の 2013 年度(平成 25 年度)の業務並びに
財政に関する監査を実施した結果、公正かつ適正に事業が実施され、財政が
運営されているものと認め、ご報告申し上げます。

平成 26 年 5 月 13 日

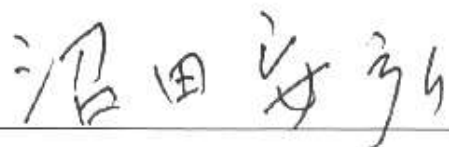
社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

監事


 (印)

稲岡 稔

監事


 (印)

沼田 安弘

監事


 (印)

水上 洋一郎